




もしタイバニーのモブの女の子が
陵辱向きな能力を持ったZEXYに
捕まったら

成年向け



**もしタイバニのモブの女の子が
陵辱向きな能力を持ったNEXTに
捕まったら**

■前書き■

この度は当サークル『NextPreview』の本を手にとって頂き、まことにありがとうございます。

今回はタイバニの「巻き込まれ少女」ことモブ子さんの本です。

本当にタイバニは毎週が楽しみでぜひ本を作ってみたいと思っていたのですがメインキャラ達には幸せになって欲しくて思わずモブ子さんを陵辱してしまいました（酷

「たまには違う絵柄で描きたいぜ！」と思い
やってみたら思った以上に大変
という非常に難産だったこの本。

どうか楽しんでいただければ幸いです。

2011/08 春日木雅人

*この本に登場する人物は、全て**二十歳以上**です。

ある日 私は仕事帰り…
見知らぬ男達に捕まり
気絶させられて
古びた倉庫へと連れて
こられました。

逃げないっ…

早く…
逃げないっ

目が覚めたときには
猿ぐつわをされた状態で
大勢の男達に囲まれていました。
そして…逃げ出そうにも
私の腕も、足も、全く動かす事が
できなかったのです。

それは「他人の体を
軟化させゴム状にする」
というMEI能力による
ものだったのですが

どうして…?

私の体 何で

その時の私にそれが
分かるわけもなく
ただ混乱するばかり
でした。

「ずっと痛いままじゃ面白くないってお客さんがいるからな 特別だぞ？」

そう言いながら長身の男が取り出したのは注射器でした。私は何をされるかを察し必死で体を動かしましたが足を閉じる事すらできません。

私の体 動いてっ！

動いてっ…

そして男は…私のそんな無駄な努力をあざけるような顔で見つめながら私の性器を指で押し開き陰核に注射をしました。

ガッガッガッ…



「じゃあ改めて誰が
このオナホちゃんの
初めてを奪うか競りに
はいりまーす」
さっきの注射をした男の声
が倉庫に響きます。



結果…私の処女は
ジュース一本分の値段で
醜く太った 毛深い男に
落札されました。

その男は 何度も
挿入するふりをしては
私の表情が歪むのを見て
楽しんでいました。



やがて周りに
急かされ始めると
男は私の腔内に性を挿入し始めました。

ハキと膜
が千破って
棄たしてやるよ

任ぢねいぢあゝ
もっと嫌がる顔を
堪能したかったんぢが！

あゝんんん
ハキツツ
ッッッッッ

ぐぐぐ
ぐぐぐ
ぐぐぐ
ぐぐぐ

早め
済ませるか！
おっ

無論 私は抵抗しました。
腔口に力を入れ 男性器の
進入を阻止しようとした。
それ

ズ
ズ
ズ



ですが
そんなもの

何の意味も
無かったのです。

結局 男は容易に
私の中に進入し
好き放題に性器を
打ち付けてきました。

そして…
自身が満足すると
私の膣内に精液を吐き出し
果てました…。



処女喪失と
膣内射精…

うして…
なことに…

破瓜の痛みと
自分の中から流れ出る
生暖かい精液の温度を
感じながら 私はただ
呆然としていました。

何でこんなことに…





ですが
そんな事さえ 始まりに
すぎなかったのです。



男達は代わる代わる
私を犯しはじめました。
撮影用のカメラを
まわしながら。



私は
許しを請う事すらもできず
ひたすらその行為を
耐えるしか
ありませんでした。

やがて
私の膣内が精液で
いっぱいになると
男達は行為を止めました。

終わった…？

ぬるぅ…

やっと…
終わった…の？

どろ..

どろ..

ようやく終わった…
そう安堵した私の耳に
「第二ラウンド前に洗浄するついでに
もっと俺の能力見せてやるよ」
という言葉が飛び込んできました。

見ると、あの長身の男が
赤い能力を発動したものに特有の
青い光を放っていました。
そして…彼はその光る手で
私の下腹部に触れたかと思うと
ゴム製のホースの口を
一気に私の膣内に挿入し、部下に
水を注入するよう命じたのです。

ゴボ
ゴボ

信じられない事態でした。
本来入るはずのないほどの水が
子宮内に入り、自分の体が
風船のように膨らんでいくのです。

…このワイヤーの先を
ゴム化した子宮口に
結んでるんで…

これで
人間水風船
完成だ!!

「こうやって
人の体をゴム状にするのが
俺の能力さ。笑えるだろ？」
その言葉を聞かなければ
理解不能の事態に気がふれていた
かもしれません。

おー!!
こ本か前た言ってた
やつですか(笑)

ワイヤーで縛り上げられた
子宮口を引き出される痛みで
そんな余裕すらなかったかも
しれません……が。

痛いっ!

痛いっ!

んんん
んんん



容赦など全くない
動物の交尾のような
性行為の後
男は大量の精液を
私の腔内に出しました。

その時
私の体に
異変がおきました。



筋肉が収縮する激しい痛み。
子宮内の水が噴出する感覚。
わけがわからず
私は獣のような叫び声を
あげ続けました。

「体液が触れた対象の体を
治療する能力」
そんな素晴らしい力を
持ちながら
迫害されてきた彼は
その能力を 自分の欲望の為に
使っていたのです。



ほう見てみ
膜も元通りだろう？

さらに 治療され
体が元に戻った事により
他人の体を軟化させる
能力を持った男も
再び能力を使ってきました。

セラ一度
その能力も
見せてやるらう

しかも…
今回は
体内にまで。

私の体は穴という穴が
ゴム化され…
まさに男達の為の
オナホール
自慰用の道具に
されてしまったのです。

それからの性行為は
さらに過酷なものでした。
ある男は
無理やり私の尿道に挿入し
膀胱内までペニスを押し込んで
きました。



しかし…
この時 既に 注射された薬は
私から正常な感覚を奪い…
「膀胱内で射精される」
という行為にすら
快感を与えるように
なっていたのです。



私は何より その
自分の内から湧き上がる快感が
嫌で…嫌で…
涙を止める事ができませんでした。



子宮口を通過する性器。
子宮内に直接出される精液。
それすら痺れるような
快感を与えるという事実が
私の心を深く締めあげました。

ただ
欲望のままに
犯され
体を弄ばれる…

そろそろ出すから
上のほうの穴
借りるぞ？

はいはい
好きに使ってー
おしはかほら

ず

ず



おん
おん
おん

精液を処理する
だけの為に
体を利用される…
そんな空間。



猿ぐつわを外されても
私の声は誰にも届かず…
延々と私を犯す為に
並んでいる男達の
相手をする…



順番待ち
いるんだから早く

おーい
もうヤッヤと
出せよー!

どろ.. どろ..

私の処女膜ですら
人の手のひらの上…
自身の快感すら
制御できない…
そんな時間が過ぎました。



あーあ次
オレ犯るっス

女膜また
治ったけど
誰か破る?

もう
ハア

ん
ん

命令されては
精液を受け止める為に
胸をさらけ出し…

胸ニツチク
回サス!!

射精するといわれれば
ペニスを咥え
嘔吐感を必死で耐えながら
全て飲み干し…

くっ…
俺も出る?!

全部こぼさず
飲み干せ!

次から次に現れる
男達の欲望がいつか
尽きる事だけを願いながら
その行為に体を委ねていました…

そして…
ついに…
私を犯すものは
いなくなりました。

うわー…
もうコレ犯す気
おきないな…

それは男達の
性欲が尽きたわけではなく
私に犯す価値が
無くなったから…

どうします？
スラムあたりト
捨ててきます？

薄れゆく意識の中で
男達の話を聞きながら…
私はもう…
目を覚ます事は
無いかもしれない
と…思っていました…

私が目を覚ました時…
私は病院のベッドの上
にいました。

看護婦さんの話によると
私は危うく証拠隠滅で
殺されそうになった所に
地域自警団の人達が駆けつけ
私を助けてくれたとの事でした。

(あのNEXTの治療能力のせいか)
体は何かをされた事が
嘘であるかのように
元に戻っていたもの…
病院に運び込まれた時は
投与された薬のせい
で本当に危険な状態だった…と。

ですが
その私を助けてくれた
地域自警団の人達に
初めて会った時…



彼らは皆
泣き濡れていました。

もっと早く見つけられれば。
いつもより人影が多いことに
もっと早く感付けば…

昔…レジェンドっていう
有名なヒーローにさ…
の笑顔は合格だ！なんて
われてさ…

それからずっとヒーローの真似事して
この辺の地区の夜まわりしてきたけど…
若い娘さんが…あ
酷い目に合ってる
駆けつけられない
…しょせん真似事
…ごめんなあ…本

私の命の恩人である彼らは
自分達の無力さに
打ちひしがれていました。

無理だったんだな…
俺らはヒーローなんて…

…いえ…

私は…
そうは思いません…



そんな彼らに
私は
ありったけの想いを込めて
感謝を言葉伝えました。
「貴方達は私のヒーローだ」と...

...だって...

私は こうやって...
生きてるじゃないですか...
皆さんのおかげで...

皆さんは
ヒーローです...
本物の... 私の...

彼らは その言葉を聞き
暫く泣き続けていましたが
やがて...
「次こそ助けてみせる。
君が僕らが必要とした時に」
そう私に告げ
病室から去っていきました。

そして... それから...

私は
積極的にヒーローの
おっかけをする
ようになりました。
「誰かに評価されたくて
ヒーローをやっている
わけではない」...



ヒーローの皆さんはそう言うでしょうが
私はそれでも感謝の言葉を届けたい...
そうする事で少しでもヒーローの
心の支えになれば...
それがきっと
私の大好きなこの街を
守る事に繋がると
思わせてくれた人達がいたから...

それ以上
引っぱち
ちゅ

だめ——っ



いやああああっ！

俺も考えたんだけどさあ

お、新品…

NEXTの世界を作るには
俺が率先してNEXTを
増やすつてのも大事だよな！

すい汗でいけるよー

いだっ…
痛いっ…

いい能力だろ？
これで皆
よがり狂うんだ…

……あー、そうですか
「痛い」だけですか！

お、危ない日か？
いやーじゃねーか
大好きなNEXT様の
子供孕めるんだからよ

ああ…
今日って！

ああ…

やあ…

な腔内…
だされ…

ガキがNEXTだったら連れて来い
認知してやるよw
遺伝するかは知らんけどな

よう！ シュテルンベルトのクソ市民諸君。
街が減びるかもしれないってのに、
今日も一人寂しく、シヨシヨやっでるか？

そんなお前らに朗報だ。
僕らのアイドル きゃらわいいフルー●ハースちゃんが
お前らの オ・カ・ス♪ になってくれるらしいぜ。

テレビ局には「中継止めたら、柱ぶっ倒すぞ」
って脅いといだから
この世で最後のオ●ニーじっくりに楽しんでくれや。

もしジェイクとの戦いで、
女子組が先に戦う事になっていたら①

いや、俺としたことがうかつだったぜ。
シュテルンビルト市民は変態ばっかだからな。
フルー●ースちゃんくらいおっぱいがあったら
又けないって奴も随分いただろう？

そんな奴らの為に 健気にも
ド●ゴン●ッドちゃんが
スリネタを提供してくれるようだ。

自前の電気でバイブとローター動かして奮闘中。
そんなキッドちゃんの姿を目にやきつけたいてくれよな！

もしジェイクとの戦いで
女子組が先に戦う事になっていたら②

うわ オカマ っよい

オカマの思考
ニエ...

●●●●●
!

何だっ
かしら...

|||||

アイツの能力...

解

もしジェイクとの戦いで
女子組が先に戦う事になっていたら③

おまけ



8話で牛角さん達と一緒にゴミ拾いしてたじゃん！そんな事ないよ、モブ子さん！

奥付

もしタイパニのモブの女の子が
陵辱向きな能力を持ったNEXTに
捕まったら

発行 NextPreview
印刷 サンライズパブリケーション様
発行日 2011/08/14
連絡 mia@preview.sakura.ne.jp
HP <http://preview.sakura.ne.jp>

Special Thanks
マスダプラス様 (ゲスト原稿&トーン)

モブの女の子

(モブ子、逃げ惑う少女、巻き込まれ少女)



タイバニの作中で色々な事件現場にいる少女。栗色の髪で、両目の下に泣きぼくろがある。普段はクリーム色と桃色のマフラー、水色のジャケットに紫のワンピースを着用しているが、15話ではウェイター姿を披露。BD/DVD版では、新たに巻き込まれシーンが追加されるなど、日々苦勞の絶えない少女である。

NEXT PREVIEW

2011 SUMMER